
藍色の空に

モロッコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

藍色の空に

【Nコード】

N08010

【作者名】

モロツコ

【あらすじ】

今回は死ネタで行こうと思います。

オオカミさんシリーズで、涼子×亮士です。

初めてのジャンルなので、駄文かもしれませんが。

それでもよければ、お付き合い願います。

（前書き）

駄文ですが、よろしくお願いします。

君は、遠い空の彼方へ連れて行かれた。
もう、君が戻ってくることはない。決して。

一瞬だった。

もう本当に、数秒の世界。

君が俺の目の前からいきなり姿を消した。

大通りで、車通りの多い所で。

ここで自慢の動体視力で君を追いかけると、君はたくさんの血を流して倒れていた。

「涼子!!」

必死。

これ以外、あの時の俺は表現のしようがないほど、必死で君に声をかけていた。

いなくなるな、俺の側からいなくならないでくれ——

「アホ、そんな顔するなって——」

まるで子供をあやすような、そんな瞳と声で君は俺に話しかけてくれた。

俺の心を察していたような、そんな表情で。

自分が一大事なのに、君は俺のことを第一に考えていてくれた。

「でも、俺は…俺は——」

「いちいち言葉に出さなくても、オレには分かってるから——」

「頼む、俺の前からいなくならないでくれ——」

心の叫びが溢れ返って言葉にでてしまった。

でも、俺の心の制御が壊れてしまったのか、俺自身で止めることはできなかった。

「涼子が隣で笑って話をしてくれないと、不安でたまらないんだ。
涼子がそばで呆れた声で話を聞いてくれないと、話している気がしないんだ。」

どんどんとあふれる言葉。

同時に君の体から、たくさんの血が流れている。

そして最後に、俺は声を振り絞って。

君、涼子を抱きしめて。

「お前がいないと、俺はだめなんだよ——」

泣いた。

男が道端で泣いていたら普通は引かれるだろう。

いつもの俺なら、多分今当てられている視線にビクビクして、涼子
ところの騒ぎではないだろう。

でもこの時は、失いたくないもののために、必死だった。

二人で手に入れた、せつかくの幸せを誓ったばかりなのに――

「…亮士。」

「え？」

「オレがもしいなくなっても…オレはお前の側にいるから。」

お前の側から…絶対に離れるなんてことは…したくないから。」

言葉が途切れ途切れになってきた。

それでも涼子は話をやめない。

「最期の最後まで…こんなに甘えて悪い…と思うけど…」

嫌だ。最期なんてそんなこと、言わないでくれ――

「オレと…過ごした…こと…ずっと…忘れない…で――」

最期の力を振り絞って君は俺の服の袖をクツッと掴んで、静かに目を閉じた。

俺の初恋の人が
目の前で
この世を去った。

ショックでしばらく、あのときはその場を動くことができなかった。
君の言葉が、今でもずっと心に残っている。

忘れるものか、君と過ごした大切な時間。
忘れるものか、君と笑いあったかけがえない時間。
忘れるものか、君がそばにいてくれた幸せな時間。

今はどれも『思い出』だけ。
その『思い出』は、俺の中を一生駆け巡るだろう。

初めて会った、あの時のこと。
君と働いた、御伽銀行での出来事。
俺が君にプロポーズした時の、あの時の顔も。

絶対に忘れない、忘れてなるものか。

「お前の分まで、しっかり生きるからな——」

藍色の夜空に光る、一つの星に向かって俺はまたひとつ、決心した。

その星は、頑張つてと言わんばかりの輝きを切れた、気がした。

まるで、涼子が始めて笑ってくれた、何にも劣らない最高の光で。

（後書き）

どうでしたか？

よければ感想等、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0801o/>

藍色の空に

2010年10月11日03時00分発行